

うちなーぐち

かわら版

沖縄語を話す会会報

第21号

2016年12月1日発行

会長 山路 安清

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-kuni@nifty.com 國吉 真正

電話 & F a x 044-988-8065



神奈川県J R川崎駅前東口広場の石敢當

てしみすく ちぬざすく
手墨勝りてん 知能才勝りてん
ちむ ちむ しけなれ
肝ど肝さらみ 世界ぬ習や

学問に勝れていても、知恵や才能が勝っていても、心が肝腎です。これが世の中の習わしなのです。
(名護親方・程順則の琉球いろは歌から)

おきなわご はな かい ちち たけーんあち びんちよーい しながわ おーさき
「沖縄語を話す会」月に二回集まてぬ勉強会、品川ぬ大崎をて

- かんこく みーど
・韓国をてぬ女夫んだおーえー-----仲門勇市
- わらび くる うむくと いち
・童やたる頃ぬ思事(1)-----保坂和子
- ぬちくすい
・命薬-----和田晶子
- ・会報に出てきた語句の説明
- ・事務局から

ホームページ
沖縄語教育支援文庫

<http://www.wwq.jp/p/>
<http://www.wwq.jp/q/>

かんこく みーど
韓国をてぬ女夫人だおーえー

仲門勇市 (那覇市)

なま さんじゅーいちにんめー くと し
今から三十一年前ぬ事やいびーしが、ソウル市な
かいある国際機関をて、我が、勤みとーたる頃、宿
舎ぬ裏むてぬ小路小をて、あたる御話 やいびーん。
ゆ るくじはんぐる ちゅ あち
夕さんて六時半頃、ちゃっさんっ人ぬ集まとーいび
ーたん。なー、此れー、何事ぬ起くりたがやーんち、
いっペーすーみぬあて、なが
眺みとーいびーたん。
あんさくと、歳ぬ頃一、大概三十びけーん成いる若
さる女ど男ぬ、大声さーにあびやーてーやーそー
いびーたん。

ちよーど びん
丁度、うんにーまんぐるー、我んねー、ハングル勉
強すんち、うみはまとーたくと、ハングロー、いぬ
一、わかとーいびーたん。

うぬおーえーそーる二人ぬ話、良ー心得て聞ちよ
ーいねー、何がやら、女夫人だおーえーやる風情やい
びーん。

あなく うぶぐー ほー えーて みきが と
女ぬ、大声さーにあびー放て、相手ぬ男んかい問っ
詰みとーる風情やいびーん。

あきさみよー。なー、うぬ大声んて言ちやらー、我ん
ねー、うぶどんもーいさびたん。

ぬー わ
何がやら分からんしが、うぬ女ぬあびー放とーしえ
ー、うぬ夫ぬ肝浅さる事しえーし、うりが現りて、
「何んちあん成たが。」んて言ち、問っ詰みとーる風情
やいびーん。

うりから、あきが ま くと どし にかし はなしん
男ん負きらん如、妻ぬ昔ぬ話出じゃち、
問っ詰みとーいびーん。なー、「女夫人だおーえーや、
いぬ らん。」て言っとーる通いやしが、二人ぬ者ー、
ちゅ あど にかし しじ くと て た ち い ま かし
一ふいさん後んかい退かん如、てー立っち言ー負かし
えーそーいびーん。

たい むの ちんペーが
二人ぬ者ー、唾掛きらんがやーんて言るあたいた
あびーっし、問っ詰みとーたしが、むっど手や出じゃ
さびらたん。うれー、珍しー事んやい、我んねー、
うどる
驚ちやびたん。

にほん ちゅ あきが わっ あきが てん
日本ぬっ人やれー、男ぬ悪さてん、男一、手出じ

やすしえー、早さい、面すぐて取らする筈やしが、
かんこく
韓国をてー、あねーあらん、手出じゃすしがど、まき
やんて言る風情やいびーん。

また
又、おーえー見ちよーるっ人ぬ達ん、勝ち負け極
ーるっ人成て、うぬ妻ぬ事うやぎて、仕掛きとーる風
情やいびーん。

く みーど くと わっ ちゅ くと
此ぬ女夫人だおーえーん、夫ぬ悪さんて言る事ぬ
わ かくて ちむ さんさーじゃーど成て、うぬ夫一、皆が前を
て、「此りからー、肝浅さる事一、さびらん。」て言ち、
しかつど約束っし、ハッピーエンドぬ幕ぬ降りとー
いびーたん。

うぬ後、うぬ二人ぬ若者一、ちむ さんさーじゃーど成て、
んまなかい居るっ人ぬ達んかい挨拶っし、望み通い
ちむ かながな ぬ あ い
肝ふじ、愛ターど引ち揚ぎて行ちやびたん。

く いっちの さんじゅーにんあま めー くと
此ぬ一件一、三十年余い前ぬ事どやしが、なま
てん、我んにんかえー、此ぬ如ーる事一、思出じゃ
ちん、あーりきさる良ー御話成とーいびーん。

う
終わい



富盛石彫り大獅子 (県指定有形民俗文化財) 1689年建立

わらび くる うむくと いち
童やたる頃ぬ思事 (1)

保坂和子 (世田谷区)

わ かゆ
我が通とーたる松山国民学校 (那覇市) ぬ近辺
しよーわじゅーく にんじゅーぶとど か わし
にちーて、昭和十九年十月十日までぬ、忘ーがた
ーそーる事やいびーしが、七十二年前ぬ事忘らんま
ーど、思出じゃさがち書ち見でーやーんて思とー

いびーん。

うんにーねー、我んねー、松山国民学校ぬ三年生
成とーいびーたん。

学校ぬ門んかい入っち行ちーねー、運動場ぬあて、
うぬたんかーなかい先生達が、めんしえーる職員室
ぬあいびーたん。あんし、うぬ前なかいまぎガジマル
ぬ木ぬ、幾ちがやたら植てーいびーたん。

又、うぬ木ぬ下なかい「登り棒」んで言ち、うりん
幾ちん立ててーいびーたん。うぬ棒んかい幾回ん登
たい、するするみかち降りたいっし、繰い返し返しす
しえー、いっぺーいー按配やいびーたん。

棒ぬ立っちょーる所から向かて、右むてなかせ
ー、1年生、2年生達ぬ教室ぬあて、3年生成いね
ー、左むてぬ教室んかい入る如成とーいびーた
ん。

運動場ぬ左ぬ側んかえー、「鉄棒」ぬあて、低さ
しんでー、並どーいびーたん。あんし、うぬ棒ぬ上か
らバランス取いがちー、恐るさ思ーっし、よーんな
よーんな一歩ち渡いしえー、面白さんあい、あーり
きさるむんやいびーたん。

学校ぬ裏むてねー、防空壕ぬ掘らつて、うぬ上か
らピョンピョンみかち、飛ん越ーがちー裏ぬ門ぬに
ーまで、行じやるむんやいびーん。

学校ぬ門から出じて、右んかい行じ、あんし、直
ぐ左んかい行ちーねー、ハイカラ町屋小んで言る
小さる町屋小ぬあいびーたん。んまをて、「ガリ木」
んで言る品物売とーいびーたん。うぬ「ガリ木」ん
で言しえー、ニッケイ、えーねー、シナモンぬ皮ぬ付
ちよーる枝ぬ先やいびーん。うり赤紙ぬテープさー
に束てーる物売とーいびーたしが、細さる枝束てー
しど、ぶたさる枝束てーしど、二ちあて、うり選ぶ
るかーじ、じろー益しやがやーんち、思ー病みーさる
むんやいびーたん。

うぬ枝齧たい、しふたいすしえー、何どんぞん言
ららん、ばー句ど甘味、うりから、いふ小苦さる物
やて、楽しまびたん。又、梅干し仁丹、旨さいび

ーたん。

ハイカラ町屋小からいちゆた一歩ち行ちーねー、
教会ぬあいびーたん。うりかーや、まぎ福木さーに
福木垣ぬ作らつとーいびーたん。んまからふら降り
ねー、広さる道んかい出じて、あんしから、左ん
かい曲がいねー、うぬ右むてなかいアイスキャンデ
ー屋ぬあいびーたん。んまぬアイスキャンデーや、変
わて旨さいびーたん。

まぎ箱から棒小んかい付ちよーるキャンデーぬ取い
出じゃさりーねー、肝だくだくさがちー、見ちよーい
びーたん。

アイスキャンデー屋ぬある道から、なーふん行ちー
ねー、右むてなかい広さる道ぬ続ち、うぬ道一、県
庁かい行ちゆる道成とーいびーたん。

うぬ道んかえー、行かん如、真つとーば行ちーねー、
米町屋ぬあて、うぬ横んかいある小路小んかい入っ
ち行ちーねー、湯風呂屋ぬあいびーたん。

うぬ湯風呂屋んかえー、幾回ん入やびたん。
うぬ湯風呂屋から戻て、なーふん行ちーねー、右む
てなかい久茂地市ぬあいびーたん。

女ぬ親んかい、うぬ久茂地市かい行じ「チラガー」
買てつ来取らしんち、頼まったる事ぬあて、我んが、
うぬ市をて、「豚のお顔ちようだい。」んで言ちやくど、
大笑ーさつたし思出じゃさびーん。

うぬ市から戻て、アイスキャンデー屋ぬ前走い
ち、いちゆた一行ちーねー、右んかえー、「波の上」
かい行ちゆる広さる道ぬあて、うぬ道んかえー、行か
ん如、歩ち行ちーねー、右んかい郵便局ぬあいび
ーたん。うぬ近くんかい書物町屋ぬあて、んまをて、
書物買て、ばーたる事ぬあて、嬉さいびーたん。

なーふん歩ち行ちーねー、左んかい丸山号ぬあて、
うぬ先んかい山形屋ぬあたんて思やびーん。

又、うぬ先んかい毛糸屋ぬあいびーたん。うぬ毛糸
屋ぬ前幾回がやたら走いささがちー、手さーに組
でーる服小見ち、うり欲さんて思とーいびーたん。
やいびーしが、我ん女ぬ親一、手さーに組むる事一

さんくろ、我んねー、ちゃー、機械さーに組でーる服
小着ちょーいびーたん。

どしぬ、手さーに組でーる服小着ちょーし見じーね
ー、我んねー、羨まさたし思出じゃち、あーりきさ
いびーん。

うぬ毛糸屋から戻て、「波の上」ぬまんぐらかい歩
ち行ちーねー、左 むてなかい浜比嘉んで言る我っ
達明治元年生まれぬ、んめー親め家ぬあいびーたん。
御祝事、うりから焼香ぬあいねー、女ぬ親んかい添
ーらつて浜比嘉かい行ちやびたん。あんしーねー、あ
っちーぬ出じて、帰いねー、必 じ白紙なかい包でー
る苞ばーやびたん。うれー、楽しみやいびーたん。

浜比嘉ぬ前走いあーしーねー、左 むてなかい尋
常国民学校ぬあいびーたん。あんし、又、左 ぬ
まんぐらぬ道んかい入っち行ちーねー、辻ぬまんぐ
ら成て、うぬ近くなかいサンゴ座んで言る芝屋ぬあい
びーたん。

んまんかえー、女ぬ親、えーねー、んめーどまじゆ
ーん車んかい乗て、芝居見じーが行ちやびたん。
見ちやし覚とーしえー、「泊あーかー」、「ヤクシド
ー」んて言る芝居やいびーん。

マチ小んて言る役ー、女すがいっし清らさいびーた
ん。

二オや、モーイ、トマイ、コーユーンて言る役
ぬあて、恋ぬ芝居やんねーさびたん。

物語ぬちむえーや、分からんたしが、「赤またー」青
またー」ぬまぎはぶぬ、舞台ぬ左 むてからん、右
むてからん出じて、つ来、天井ぬ丈まで届ち、息欠伸
んしみらんあたい恐るさ思ーっし、見ちやし覚とー
いびーしが、うぬ後ー、何ん覚てー居いびらん。

うぬ芝居ー、今やてん行ーつとーいびーがやー。

さて、大鳥居からふきて行じ、「波の上神社」ぬ右
下から降りて行ちーねー、海端んかいプールぬあた
る筈んて思やびーん。

「波の上」ぬ下ぬしーをて、「ナンルルモーモー」
取て、煮ち食だる事ぬあしが、うぬナンルルモーモー

ぬ口ぬ小さんあい、針さーに突ちん、いーくる中ぬ
実や、取ゆーさびらんたん。

「女夫じー」かい行ちーねー、栄螺やか小さんねー
する「モーモー」ぬ、しーんかい付ち、うれー、良ー
か食まりやびたん。

うりかー近辺ぬ海端ー、珊瑚から成とーくろ、空ふ
さっし歩ちねー、ふいさぬ病て大事やいびーたん。

ふいさんかい「まーすえー」ぬ、んじぬ刺さつて、ちゆ
糸ー事成たる事ぬあいびーしが、小さる「入江」ぬ多
くあて、童ー、一人やてん、泳じ遊ぶる事ぬ成いび
たん。

赤青色ぬちらちら光とーるうじらーしぎさる細魚
小達ぬ、多く泳じよーいびーたん。うぬ魚小や、ぐ
るさぬ、かちみゆーさびらんたん。

うんにーまんぐるぬ那覇ぬ海ー、清ら海やいびーた
ん。

教会ぬ直ぐ前ぬ道から右んかい降りて、又、右
んかい曲がいねー、小路小ぬあて、うぬ左 むてな
かい仲本ぬ家ぬあいびーたん。んまー、我っ達たん
めー弟ぬ家成とーいびーん。うぬたんめーや、かた
かしら結とーいびーたしが、いっぺー珍さんて思
やびたん。

我っ達うふたんめーや、仲本瑞芝んで言びーしが、漢
文学者やみしえーたんでぬ事やいびーん。

仲本ぬ家からかーま先むてなかえー、我っ達女ぬ
親ぬうふあやー達くさて方ぬ家ぬあいびーたん。儀
間小んて言びーしが、んまぬたんめーや、三世相そ
ーみしえーびーたん。

すくぬ上んかい置かつとーる入り物なかい入っちょ
ーるうろーさる串小ぬあて、うれー、占ーんかい使
いしやしが、うりん珍しー物やいびーたん。

松山国民学校ぬ裏ぬ門ぬ道ー、変わとーる五ち
ぬあじまー成て、若狭町ぬ通い道やいびーたん。ん
まから降りて、右 むてぬカンタク小路小ぬ道中ぬに
ーなかい我っ達親ぬ家、「山口家」ぬあいびーたん。

(続ちゆん)



首里金城町石畳道

ぬちぐすい
命薬

和田晶子（我孫子市）

我んねー、5月に神保町ぬ教育会館をて、
催さったる「沖縄の食文化の底力、沖縄の食
文化が鬱を防ぐ」んて言う講演会んかい行じ来や
ーびたん。

國吉眞正さんからパンフレットばーて、教育
会館かい行ちゃびたん。

沖縄ぬちゅちー食みーねー、鬱病んて言う病
んめーや、掛からんて言しえー、何やがやーんて
思て、我んねー、餓鬼やくと、肝わさわささが
ちー、行ちゃびたん。

此ぬ講演会ぬ先生や、高山厚子さんて言う御
方やみしえーびーたん。

先生や、名護ぬ羽地村をて生まりて、今73
ぬ歳やみしえーびーん。

東京ぬ小学校ぬ先生、教頭、校長勤みと
ーみしえーびーたしが、今、「沖縄料理研究家、
沖縄県修学旅行アドバイザー、鬱予防のためのメン
タルアドバイザー、沖縄の健康食材を使用した料理や緑のカーテン運動など、全国へ発信して
いる。」んて、プロフィールんかい書かっつーい
びーん。

沖縄ぬちゅちーぬ御話ん、先生が小さいにぬ
御話ん、いっぺーあーりきさいびーたん。

例れー、昆布やいびーしが、炒りちー、じゅー
しー、御汁んでー、多くぬちゅちーんかい使
つとーんてぬ事、うりから、あーぬ肉ー、諸茹
てから使ゆくと、コレステロールぬ上がらんで
ぬ事、又、ごーやーぬ小さる葉や、天麩羅揚ぎ
て、まぎさる葉や、まーすさーにみみじ、細く切
つち食だんてぬ事、先生や、色々御話しみしえ
ーびーたん。

先生ぬ御話し聞ちゆるうっぴっし、我んねー、
頑丈成いる如ーいびーたん。

又、先生や、「此りから実験さびら。」んて言ち、
白砂糖(角砂糖)んかい火付きて、燃ーさびたん。
御衆様、ちゃー成たんで思やびーが。

真っ黒成て溶きやびたん。

黒砂糖んかい火付きーねー、御衆様、ちゃー成た
んで思やびーが。

ばーばー燃ーやびたん。

うれー、黒砂糖ぬミネラルぬど燃ーとーいびー
たる。

白砂糖やか黒砂糖ぬど、いっぺー上等やいび
ーんてたい。

沖縄ぬちゅちーだど、海ぬ水さーに育てーる物
食て、うりから、親ぬふじ畏りて、「行逢りば
兄弟、命ど宝」ぬ肝心持ちーねー、鬱病
んて言う病んめーや、掛からんて先生や、言み
しえーびーたん。

あんし、先生や、「戦後ぬ、物ぬ無ーんたる時ね
ー、我んねー、餓鬼やいびーたん。45年前に
東京かい出じて来やしが、今まで、『餓鬼の精
神』さーに生ちち来やーびたん。」て言みしえー
びーたん。

我んねー、先生御話しんかい肝打たつて、我ん
にん「餓鬼の精神」持つち、なーふん勉強さねー
成らんやーんて思やびたん。

先生ぬ御話し聞ちやがちー、「へえー」とか「ほ
ー」とか「なるほど」とか、大和口っし、胴一人

むにーそーいびーたしが、「感動詞、感嘆詞」沖繩うちなー口くちっし言いーゆーする如ごと、くりからん、沖繩口うちなーくちぬちーく稽古ちーくうみはまりわどやるんで思うむとーいびーん。
 我わんねー、先生しんしーぬ旨まーさぎさる御話うはなし 拝がで、いっぺー
 一腹わたみぬ満みっちゃかて無ねーやびらん。
 「ごちそうさまでした。」や、沖繩口うちなーくちっし「ふっ
 ちーさびたん。」て言いびーしが、先生しんしーや、「命ぬちぐすい薬くすい
 さびたん。」て言いる沖繩口うちなーくち習ならーち呉くみしえーびー
 たん。
 大和口やまとくちっし「命ぬちぐすいの薬くすい」どやいびーる。
 「命ぬちぐすい薬くすいさびたん。」て言いる沖繩口うちなーくちー、いっぺー
 上じょーと等うむやんで思うむやびたん。
 我わんねー、先生しんしーから色々いろいろな沖繩うちなーぬ御話うはなし 拝がで、命ぬち
 薬くすい成ないびたん。

終わい

会報に出てきた語句の説明

- ・女みーと夫とんだおーえー：夫婦喧嘩。
- ・～ををて：で。「国際機関こくさいきかんををて：国際機関で。」
この頃、発音が悪い人がいますが、「～ううて」では
ありませんので、注意。
- ・～ななかい：に。の中に。存在する場所を表わす。
- ・むむて：方。方向。方面。側。
- ・小路小すーじこ：小路。露地。横丁。
- ・小こ：小さいことを表し、またその愛称となる。子供
の名について、愛称となる。少量であることを表わ
す。軽蔑の意を表す。分家の意を表すので、広い意
味で使われております。
- ・ちゃっさん：いくらでも。無制限に。
- ・いっぺー：たいそう。非常に。たいへん。
- ・すーみ：深い興味を持つこと。
- ・あんさくと：そうしたら。
- ・～びびナーん：ばかり。
- ・～ささーに：で。「大声うぶごさーに：大声で。」
- ・あびやあびやーてーやー：わめき散らすさま。
- ・うんにーままんぐる：その頃。
- ・うみはまゆん：はげむ。熱心に努力する。
- ・いいふー：少しは。
- ・何がなにやら：どうしたのか。どうしたわけか。
- ・風情ふうじ：風采。なりふり。ようす。
- ・あびあびー放ほうゆん：わめき散らす。どなり散らす。
- ・うぶうぶどんもーい：びっくり仰天。
- ・肝ちむあさ浅くどさる事こと：浮気であること。貞操観念が乏しい
事。
- ・現あらわりゆん：現れる。あらわになる。露見する。
- ・～んんて：と。引用句を受ける。「暑あちさんさんて言いたん：
暑あちいと言いった。」
- ・一ちゅふふさ：ひと足。一步。
- ・てたー立たっち：むきになって。
- ・言いー負まかしえー：論争。言い負かしあい。
- ・あたい：くらい。ほど。
- ・むむつと：全然。全く。
- ・すぐすぐゆん：しごく。なぐる。
- ・すぐとて取とらすん：なぐってやる。
- ・あねーあらん：そうではない。
- ・極ちわみゆん：決める。定める。
- ・うやぎゆん：支える。押し上げる。援助する。
- ・肝ちむんさーじゃーと成なゆん：気のせいせいする。心も
さっぱりする。
- ・しかしかつと：しつかと。しっかりと。
- ・肝ちむふじゆん：満足する。十分と思う。
- ・ああーりきさん：面白い。楽しい。
- ・～ががたー：～しそう。まさにそのことが起ころうと
しているさま。
- ・～ままーど：前まへ(に)。～にならないうちうち(に)。
- ・～ががちー：ながら。つつ。
- ・うんにー：そのおり。その時。
- ・うんにーに：そのおりに。その時に。「うんにーね
ー：その時には。」
- ・たんかー：真向まへむかい。正面。

- ・めんしえーん：いらっしゃる。おいでになる。いる・行く・来るの敬語。同等および目上に対して用いる。
- ・まぎさん：大きい。「まぎがじまるぬ木：大きなガジュマルの木。」
- ・幾ちがやたら：幾つだっただろうか。
- ・～みかすん：擬声語。擬態語につき、～と言う、～と言う音を立てるの意を表す。「するするみかすん：するすると音を立てる。」
- ・ばー：よい。「ばー^{あんべー}按配：よい按配。」
- ・～しんでー：次第。～の順。「低さしんでー：低い順。」
- ・よーんなー：ゆっくり。「よーんな^{あっ}一歩ちゆん：ゆっくり歩く。」
- ・～にー：そば。近所。近く。
- ・細さん^{くま}：小さい。小型・小粒である。
- ・ぶたさん：太っている。
- ・～かーじ。つど。度。たびに。
- ・じる。どれ。
- ・しづゆん：口にくわえて吸う。しゃぶる。
- ・何どんどん^{ぬー}言ららん^い：何とも言えない。言葉で表せない。
- ・いちゆたー：ちょっと。しばらく。
- ・うりかー：その辺。
- ・ふら：坂。
- ・変わ^かて：とりわけ。格別。特に。ことに。
- ・肝^{ちむ}だくだく：胸騒ぎするさま。胸がドキドキするさま。
- ・な^まふん：もっと。さらに。
- ・真^まつとーば：まっすぐ。一直線。また、正しいさま。
- ・走^はい^ちすん：通り過ぎてしまう。
- ・ばーゆん：もらう。
- ・ちゃー：いつも。常に。
- ・どし：友。友だち。仲間。
- ・まんぐら：あたり(辺)。おおよその場所を示す。
- ・んめー：おばさん。祖母、また、老婆。
- ・親^{うや}ぬ^や家：親の家。また、嫁いだ女の里。
- ・あんしーねー：そうすると。
- ・ふ^ちちー：ごちそう。
- ・えーねー：あるいは。
- ・まじゅーん：一緒(に)。共(に)。
- ・すがい：装い。
- ・ねー：(～する)ように。(～した)如く。「芝居やんねーさびたん：芝居であったようでした。」
- ・ちむえー：意味。わけ。理由。
- ・はぶ：ハブ。奄美・沖縄特産の毒蛇。「まぎはぶ：大きなハブ。」
- ・丈^{たき}：丈。背の高さ。「天^{てん}井^{じょー}ぬ丈^{たき}：天井の高さ。」
- ・息^い欠^ちあ^くび^びん^び：息つく暇も与えない。
- ・今^{なま}や^{てん}：今でも。
- ・ふきゆん：くぐる。潜り抜ける。
- ・しー：岩。
- ・ばーくる：大よそ。おおかた。大体。
- ・空^{から}ふ^らさ：はだし。
- ・ま^すえ^ー：ウ二。
- ・んじ：とげ。「んじぬ刺^ささ^てて：とげが刺されて。」
- ・ちゆ^くえ^ー事^と：大変な事。えらい事。大事。
- ・一^ち人^{ゆい}や^{てん}：一人でも。
- ・うじら^くーし^まい^いる^ゆ細^い魚^い：かわいい小魚。
- ・ぐるさん：すばやい。すばしこい。
- ・かちみゆん：掴む。
- ・たんめー：祖父。おじいさん。
- ・かたかしら：成人男子の髪型。
- ・うふたんめー：曾祖父。ひいおじいさん。
- ・うふあやー：父母の一番上の姉。
- ・くさ^{かた}て^か方^た：夫のかた。嫁入り先の方。
- ・すく：机。「すくぬ^あ上^ま：机の上。」
- ・うろーさん：細い。
- ・あじまー：交叉したもの。交叉したところ。
- ・掛^かか^かゆん：掛かる。
- ・餓^が鬼^ち：食いしん坊。食をむさぼる者。
- ・肝^{ちむ}わ^わさわ^ささ^さ：胸騒ぎするさま。心がうきうきするさま。「肝^{ちむ}わ^わさわ^ささが^ちー：心が浮き浮きしながら。」

- ・～みしえーん：～なさる。
- ・炒りちー：油いため。油でいためた料理。
- ・じゅーしー：炊き込み飯。野菜などを味付けして炊き込んだ飯。くくじゅーしーともいう。雑炊。おじや。柔らじゅーしーともいう。
- ・～んでー：など。「御汁うしるんでー：お汁など。」
- ・まーす：塩。
- ・みみじゅん：もむ。
- ・うっぴ：それだけの(量)。「うっぴっし：それだけで。」
- ・ちゃー成ないが：どうなるか。
- ・ばーばー燃めーゆん：ぼうぼう燃える。
- ・～やか：より。比較の時使う。
- ・たい：目上に話しかける時・呼びかける時などに女が発する敬語。
- ・てーだ：太陽。お日さま。
- ・親うやふいじ：父祖。祖先。
- ・畏うすりゆん：敬う。尊ぶ。あがめる。
- ・肝打ちむうたりゆん：胸を打たれる。感嘆する。
- ・勉強びんちよーさねー成ならん：勉強しなければならぬ。
- ・ととか：とか。
- ・胴どーちゆい一人むにー：ひとりごと。
- ・御話うはなしが 拝むん：お話をお聞きする。

* 本文では、語句は活用されているのもあります。ここに示した語句の説明は、終止形となっております。

参考文献

- ・沖縄語辞典「国立国語研究所」
- ・沖縄語辞典 内間直仁・野原三義 編著
- ・Okinawan-English Wordbook Mitsugu Sakihara「University of Hawaii Press」
- ・広辞苑「岩波書店」
- ・新公用文用字用語例集
「内閣総理大臣官房総務課監修」

事務局から

三人の方から原稿を頂戴して、忘年会の席で、第21号の会報として、配布に間に合い嬉しく思います。

今回は、那覇市在住の仲門勇市さんから、30余年前の韓国でのお話を書いていただきました。韓国では、犬も食わない夫婦喧嘩は、変わっていますね。皆の前で「問と詰ちみえー」するのですね。周りにいる人は、単に野次馬が集まったのではなく、審判(?)をするのですね。

楽しいお話をいただきありがとうございました。

保坂和子さんから、70余年前の幼少のころの那覇のお話をいただきました。戦争が始まる前の那覇市は、平和で整った町であったようですね。その頃的那覇市内の地図を見ながら、この文を読むと、きっと楽しい話題の発見があるものと思いました。貴重な思い出を書いていただきありがとうございました。少し長い文ですので、次号へ続けさせていただきます。皆さんご期待ください。

和田晶子さんから、「命ぬちくすい薬」になったお話をいただきました。和田さんには、たびたび書いていただいておりますが、毎回素晴らしい経験話をいただき楽しく拝読しました。

私は、戦後物のない時代に幼少のころ過ごしているので、薬もない、病院にも行けない時がありました。病気をすると、最悪でした。

そのような時には、鯉節を大目に削って、味噌を入れてお湯をかけて食べるのですが、これが美味しくて薬になったような気がしました。和田さんの「命ぬちくすい薬さびたん。」を思い出しました。その時にもう一つ、いい言葉があります。「目皮みーがーぬうくりたん。」です。元気が回復してまぶたが盛り上がった。ということで、良く使った言葉です。

JR川崎駅前東口広場の石敢當について。

1960年の宮古台風災害に対し、川崎市議会が中心になり、全市で募金活動が行われ、そのお礼として、当時の琉球政府から送られた宮古島特産の名石トラバーチンに「石敢當」(いしがんとう)と刻字された高さ122センチの碑です。(説明文は、インターネットから)

この会報を音読などの教材として使用される方がおられましたら、事務局へ連絡くださいませ。会報を増刷して差し上げたいと思います。

この会報は、「うちなーぐち」にご関心があれば、会員以外の方でも投稿できます。

原稿は趣旨を変えないで、手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

國吉(眞)

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

| | | | |
|------------------|------------------------|-------------------|-------------------------|
| と[tu] | とーい(鳥) うと(音) みーと(夫婦) | と[hwe] | とー(南) にとーでーびる(有難うございます) |
| と[to] | とーふ(豆腐) とーばる(桃原) | へ[he] | へい(おい「目下への呼びかけ」) |
| ど[du] | どし(友人) やど(宿) どー(自分) | や[?jal]* | やー(君、お前) やん(言わない) |
| ど[dol] | どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある) | や['jal] | やー(家) やん(である) |
| て[ti] | てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空) | ゆ[?jul]* | ゆん(言う) |
| て[te] | てーく(太鼓) てーしち(大切) | ゆ['jul] | ゆんたく(おしゃべり) |
| て[di] | ふて(筆) んてー(喉) てきやー(秀才) | よ[?jol]* | よーいー(おさな子) |
| で[del] | でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟) | よ['jol] | よーんなー(ゆっくり) |
| ふ[kwal] | ふじ(火事) ふちー(ごちそう) | あ[?wa]* | あー(豚) あーちち(天気) |
| か[ka] | かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方) | わ['wa] | わーむん(私のもの) |
| ふ[gwal] | にんふん(念願) ふんく(頑固) | あ[?wi]* | あー(上) あーりきさん(面白い) |
| が[ga] | がんちよー(眼鏡、めがね) しがた(姿) | あ['wi] | あきが(男) あなく(女) |
| く[kwil] | くー(声) さっくー(咳) くゆん(呉れる) | あ[?we]* | あーきー(金持ち) あんちゆ(ねずみ) |
| き[ki] | きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙) | あ['we] | あーいあー(お祝) わじゃあー(災い) |
| ぐ[gwi] | ぐーく(越来「地名」) | ん[?N]* | んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ) |
| ぎ[gi] | かーぎ(容ぼう) | ん['N] | んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなと(港) |
| く[kwe] | くー(鋤) からじくー(髪きり虫) | い['i]* | いん(縁) いだ(枝) |
| け[ke] | けー(かゆ) ちけー(使者) | い[?i] | いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く) |
| ぐ[gwe] | ぐったい(ぬかるみ) | を['u]* | をど(夫) ちーじ(さとうきび) |
| げ[ge] | げー(害) にげー(願い) | う[?u] | うと(音) うーび(帯) |
| ふ[hwal] | ふー(葉) なーふ(那覇) | え['e]* | えーま(八重山) えーじ(八重洲) |
| は[ha] | はる(畑) はぎもー(荒地) | え[?e] | えーさち(あいさつ) えーじ(合図) |
| ふ[hwi] | ふじゃい(左) ふーと(いるか) | お[?o] | おーじ(扇) おーさん(青い) |
| ひ[hi] | ひやみかすん(えい、と言う) | を['o] | をーじ(王子) をーれー(往来) |

[]内は沖縄語辞典による読み方 [?]は声門破裂音のあること、[']は声門破裂音のないことを示す。

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 とーい(鳥) ×とーい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)